

様決

車馬舟車在道中か

以て此の如くは目玉か

了 野とらふ ~~の~~ 家

以て申す事少くは隔

の地へは移す時の被

る傍へは ~~の~~ 家



今何れに非
ざる由を以て
一種の滋味を感ず
連つて其の土地に
居るは

小生はしるる者なり
つては地はるる者なり
都市に在る者なり
邦に在る者なり
右に在る者なり
左に在る者なり
是れ其の理なり
或は

小生も種々の病
やみ苦しむるに
或は五位位中
つねに後すや
一かもしるは
此地梅樹
可もさるの草
すもさるの魚
川の上子の
程葉はふ
来月と糸部へ
とん日まうん
仔片は
先名は
祈り



山田殿太郎持
 周防玉峯
 三國五所

凡世之
 菰城和結城
 郡之
 長子



在平也

閑宗

祈光
 何

長塚新書簡



特別
文庫14
C49

